

あなたに合う動かし方チャート・・・4つの質問で決まる

上から順に答えてください。どれが優れているかではなく、あなたの生活に合うのはどれか、を出すための紙です。

結論が出たら、第7講「何に使うか」で街乗りと高速の比率も出しておく、車種まで絞れます。

STEP 1

自宅か職場で充電できますか

いちばん大きな分かれ道。持ち家の駐車場に電源を引けるか、集合住宅に設備があるか

できる 電気自動車・PHEVが候補に入る

燃料代の差がいちばん大きく出る形。STEP 2へ

できない 電気自動車は候補から外す

外の充電器だけで暮らすのは負担が大きい。給油だけで済む3種で考える。STEP 3へ

STEP 2

遠出はどのくらいしますか

月に何回、片道どのくらいか。充電の計画が要るかどうかが変わります

ほぼ近場 → 電気自動車

遠出もする → PHEV（給油もできる安心）

STEP 3

年間で何km走りますか

目安：1万km未満なら燃費の差は効きにくい。1万kmを超えると差が積み上がる

少ない → ガソリン（車両価格の安さが勝つ）

多い → STEP 4へ

STEP 4

街乗りと高速、どちらが多いですか

信号での発進と停止が多いほどハイブリッドが効きます

街乗りが多い → ハイブリッド

発進と停止のたびにエネルギーを回収できる。渋滞が多い人ほど効く

高速が多い → ガソリン／ディーゼル

一定の速度ではハイブリッドの差が縮まる。距離が長いならディーゼルが有利

雪国・寒冷地 → 四輪駆動のガソリン／HV

寒さで電池の性能は落ちる。暖房も電気を使う。立ち往生も考えておく

ガソリン

充電できない + 距離が短い／高速が多い

車両価格が安く、選べる車種がいちばん多い。距離を走らない人にとっては、これが最も総額の安い答えになりやすい。

毎日長い距離を走る人は、燃料代の差が数年で積み上がります

ハイブリッド

充電できない + 距離が多い + 街乗り中心

発進と停止が多いほど効く。渋滞の多い地域や、送迎で細かく動く使い方と相性がいい。

同型のガソリン車より車両価格が高い。差額を取り戻せる距離が確認を

ディーゼル

充電できない + 距離が多い + 高速中心

軽油が安く、低い回転から力が出る。荷物を積んだときや坂道でも余裕がある。

短距離ばかりの使い方だと不調が出ることがあります

電気自動車／PHEV

自宅で充電できる

近距離を電気でまかなえれば、燃料代の差はいちばん大きい。静かさや加速も他にはない魅力。

中古では電池の状態が価格を左右します。寒冷地では走れる距離が落ちます

🏠 STEP1で半分が決まる

自宅で充電できるかどうか。この1問だけで、候補の半分が入れ替わります。今日いちばん先にやるべきことは、駐車場に電源が来ているか見に行くことです。

💡 「これからは○○」で選ばない

世の中の流れは、あなたの毎日の使い方を教えてくれません。距離・比率・充電環境。この3つを自分の数字で持っている人は、流行が変わっても迷いません。

⚠ 持たない選択も答えのひとつ

年に数回しか乗らないなら、カーシェアやレンタカーのほうが安いことがあります。この比較は終章で正面から扱います。持つと決める前に一度計算してみてください。

出典：各メーカーの公表資料および関係省庁の公表資料ほか。目安は一般的な傾向で、車種・年式・使い方により変わります。特定の動力方式を推奨するものではありません。車のカリキュラム 図解⑪ / © 2026 秋元進吾